

《参考資料》

豊橋市のごみ処理の現状

○ 豊橋市のごみ分別

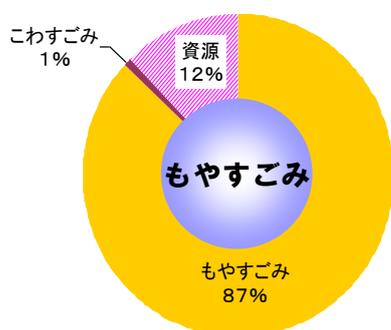
区 分	ごみの例	持ち出し場所	
もやすごみ	生ごみ、紙くず、木くず、くつ、カバン	ごみステーション	
プラスチック(資源)	「プラマーク」が付いたプラスチック製 容器包装	〃	
こわすごみ	バケツ、傘、時計、ビデオテープ、 ぬいぐるみ、おもちゃ	〃	
危険ごみ	蛍光管、スプレー缶、針、カミソリ	〃	
うめるごみ	茶碗、皿、植木鉢、ガラス製のコップ、 レンガ	〃	
大きなごみ	布団、たんす、机、電子レンジ、自転車	ごみ処理施設へ自己搬入 戸別有料収集	
資 源	びん・カン	アルミ缶、スチール缶、びん	ビンカンボックス
	ペットボトル	ペットボトル	ごみステーション
	布 類	衣類、シーツ、カーテン	ごみステーション リサイクルステーション
	古 紙	新聞紙、チラシ、雑誌、ダンボール、 牛乳パック	地域資源回収 リサイクルステーション

※ リサイクルステーション：市内3か所にある古紙・布類・食用油の回収拠点

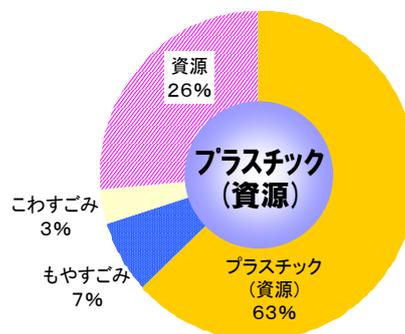
豊橋市のごみ分別は7分別です。ごみの区分ごとに収集日と持ち出し方法が決められています。

現在、豊橋市は「指定ごみ袋」を導入していません。「もやすごみ」等をごみステーションに出す場合は、透明又は半透明であればどんな袋でもごみ出し袋として使用することができます。

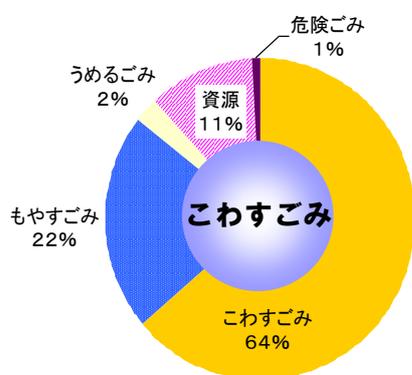
○ 家庭ごみの分別状況



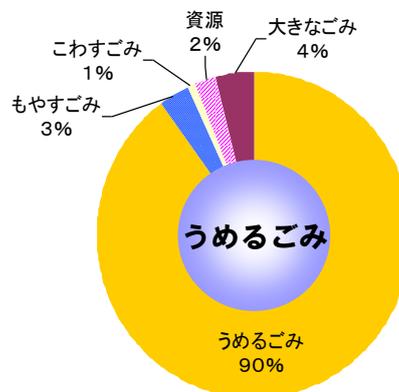
古紙など「資源」として出さなければならぬごみの混入が目立ちます。古紙は各地域で実施されている地域資源回収（廃品回収）や、市内3か所にあるリサイクルステーションで回収しています。



「プラマーク」が付いたプラスチック製容器包装が対象となります。古紙等「資源」の混入が全体の4分の1を占めています。プラスチック(資源)のごみの日には、プラスチック製容器包装とペットボトルを別々の袋に分けてごみステーションに持ち出すことになっています。



不適切な分別によるごみ出しが多く、特に「もやすごみ」として出さなければならぬごみや「資源」として出さなければならぬごみの混入が目立ちます。

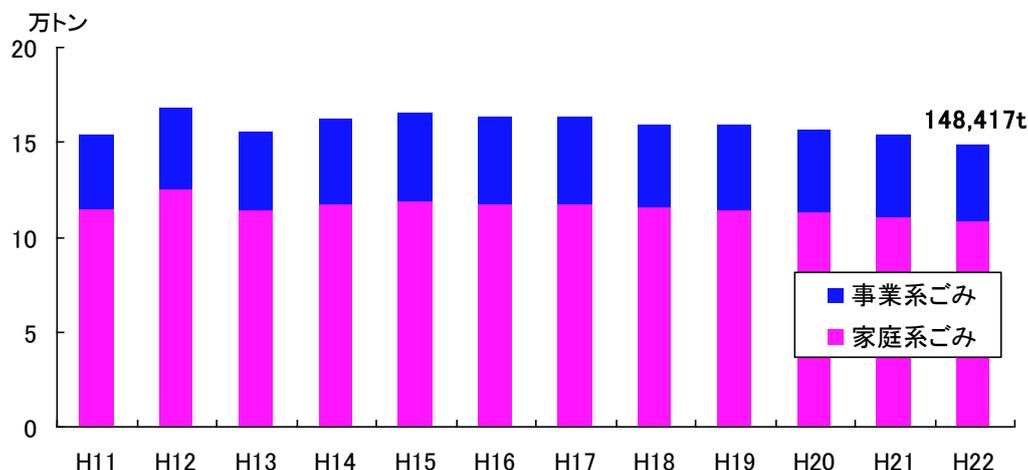


おおむね正しく分別されています。「うめるごみ」は焼却・破砕処理やリサイクルが他のごみと比べて難しいため、最終処分場で埋立処分されます。

資料:家庭ごみ組成分析調査(H21)より

○ 豊橋市のごみの現状

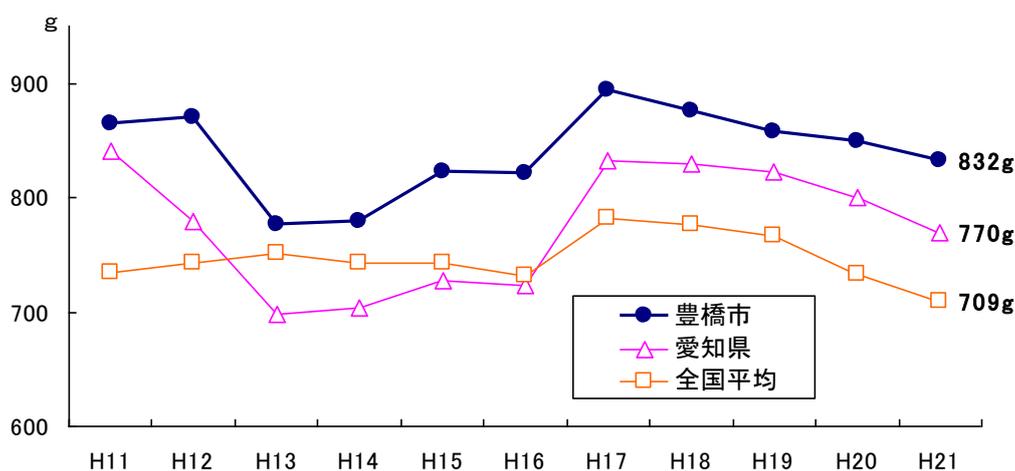
① ごみの排出量



資料:本市統計より

平成12年度以降、ごみの排出量は徐々に減少しています。平成22年度のごみ排出量は、家庭系ごみが107,879トン、事業系ごみが40,538トンの計148,417トンとなっており、事業系ごみが全体の約3割を占めています。

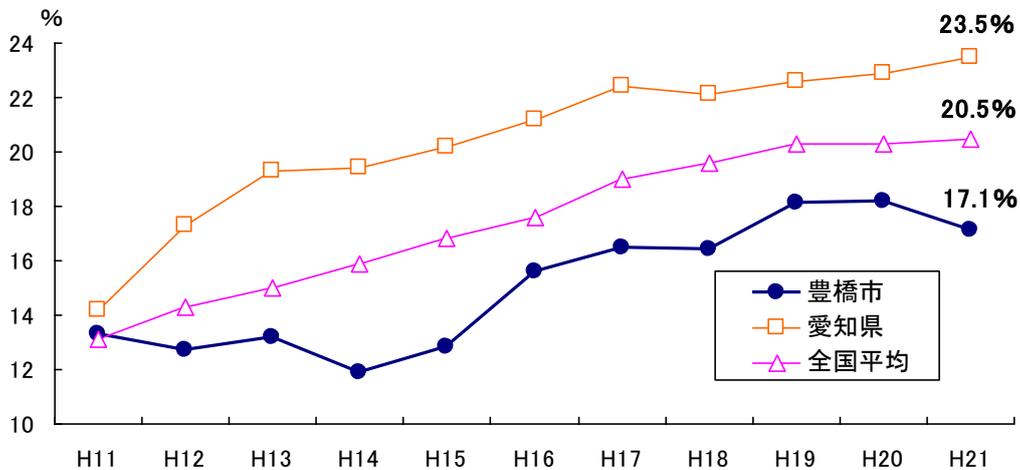
② 市民1人1日当たりの家庭ごみ排出量



資料:一般廃棄物処理事業実態調査(環境省)より (H16以前は地域資源回収量を含まない。)

市民1人が1日に排出するごみの量は、年々減少していますが、豊橋市は愛知県や全国の平均と比べると依然として多い状態です。生ごみの水切りなど、身近な努力で家庭ごみは減量することができます。

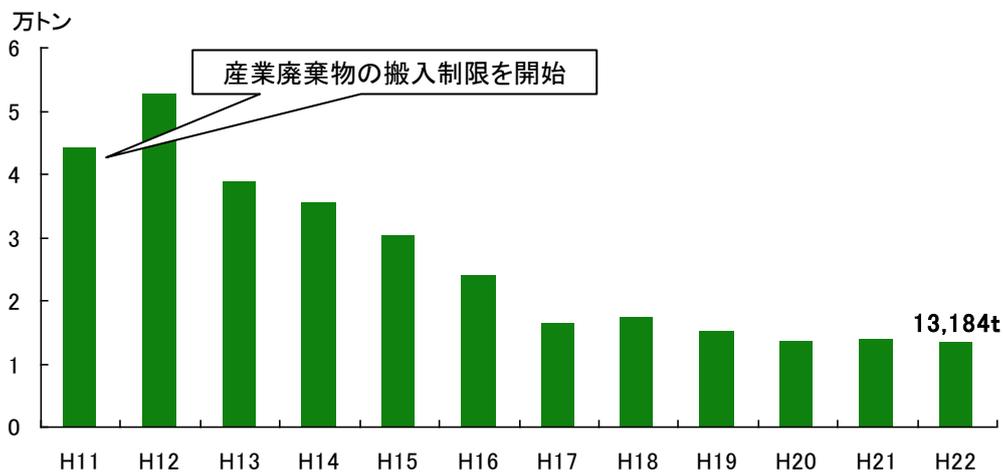
③ リサイクル率



資料:一般廃棄物処理事業実態調査(環境省)より

ごみ排出量のうち、資源として再利用される割合を表すリサイクル率は、プラスチック製容器包装の分別収集や地域資源回収での資源ごみの回収等により、増加傾向にありますが、愛知県や全国の平均と比べると依然として低い状態です。リサイクル率の向上には、ごみの減量とあわせて資源となるごみの分別が欠かせません。

④ 最終処分量



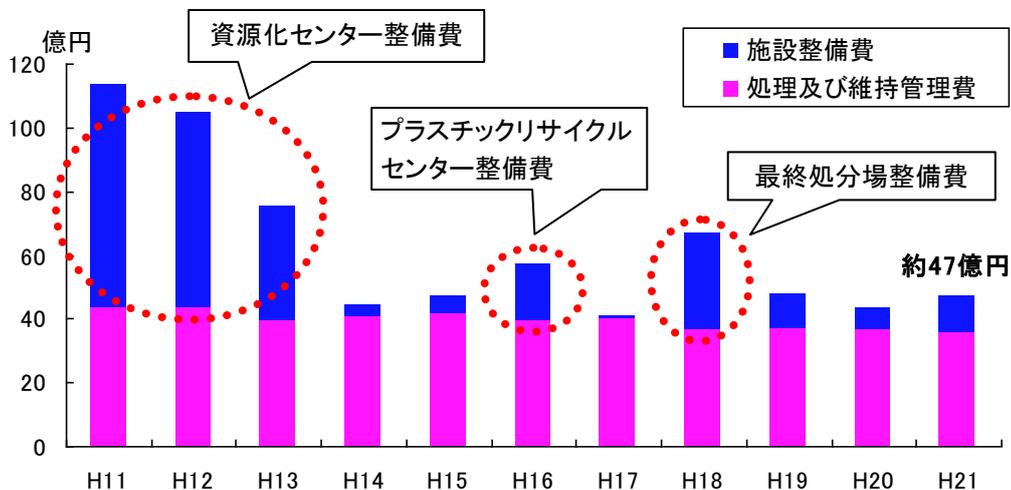
資料:本市統計より

最終処分量は、平成11年度に産業廃棄物の搬入を制限して以降減少していますが、近年は横ばい状態が続いています。

最終処分場の整備には広い土地を必要とします。また、埋立てが終了した後も周辺環境に影響を与えないように施設の管理をしっかりと行わなければなりません。

平成23年度から新しい最終処分場の供用が開始されましたが、さらなる処分場の整備は非常に難しいため、ごみをできるだけ減らして延命化をしなければなりません。

⑤ ごみ処理にかかる費用

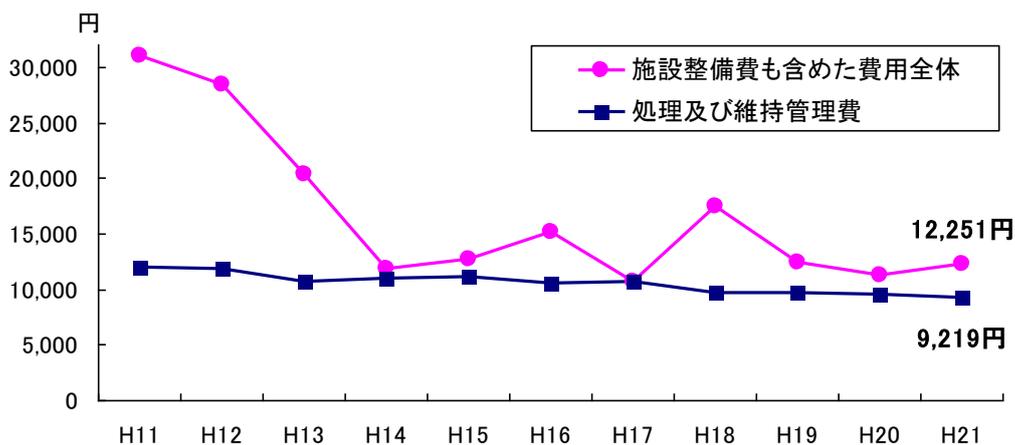


資料:本市統計より

ごみ処理にかかる費用は、ごみの収集や処理など常に必要となる「処理及び維持管理費」と、ごみ処理施設の整備の際に必要な「施設整備費」の二つに分けられます。豊橋市の場合、平成21年度は総額で約4.7億円のごみ処理費用を要しており、そのうち「処理及び維持管理費」は約3.5億円となっています。

資源化センターやプラスチックリサイクルセンター、最終処分場などのごみ処理施設の整備には多くの費用がかかります。

⑥ 市民1人当たりのごみ処理にかかる費用



資料:本市統計より

「⑤ごみ処理にかかる費用」から市民1人当たりの費用を計算した場合のグラフです。

常に必要となる「処理及び維持管理費」はほぼ横ばいです。「処理及び維持管理費」はごみの減量やごみ収集・ごみ処理の効率化によって削減することができます。

○ 指定ごみ袋制度とは

市がごみ出し袋の規格（大きさ、色、形、素材など）を指定し、その袋を使ってごみ出しをしてもらう制度です。

ごみの品目ごとに袋の色を変えて区別するのが一般的で、古紙やペットボトルなどの資源ごみは、指定ごみ袋の対象から除く場合もあります。指定ごみ袋は、スーパーやコンビニなどで市場価格で販売されます。

現在、愛知県内では豊橋市以外のすべての市町村で指定ごみ袋制度が導入されています。指定ごみ袋の効果として次のことが挙げられます

- ・ **ごみの減量と分別の徹底**

指定ごみ袋の導入により、分別意識が高まり、ごみの減量やリサイクルの促進につながることを期待できます。

- ・ **適正な排出方法の徹底、収集効率の向上**

ごみ出し袋が統一されることで中身の確認がしやすくなり、危険ごみなどの混入が防止でき、収集作業の安全確保と効率の向上が期待できます。

○ 家庭ごみ有料化とは

ごみ処理に必要な費用の一部をごみを出す人から手数料としてもらう仕組みです。具体的には、指定ごみ袋の値段に手数料を上乗せして、販売価格を通常よりも高めに設定する方法が一般的です。ごみ袋の価格は有料化を実施している市町村で異なり、1枚あたり20円～80円など様々です。

「家庭ごみの有料化」は、ごみをたくさん出す人ほど経済的負担が大きくなり、結果的にごみ減量や分別の徹底に大きな効果が期待できますが、ごみ減量に努力している人への負担軽減や、不法投棄の防止など、行政は単に市民に負担を求めるだけでなく、取り組みやすいごみ分別・ごみ出しの環境を整備する必要があります。

特に、ごみ減量やごみ分別は、電気や水道の節約と比べて、取り組んだことによる成果やメリットが見えにくいものです。ごみ処理には多くの費用を使っていることを知ってもらうと同時に、ごみ減量やごみ分別に取り組めば、その費用を節約でき、他のサービスに有効活用できることをPRする必要があります。